太洋基礎工業の「今」をお届けする社外報

たいよう新聞

461号
6月10日発行

TOP MESSAGE

代表取締役社長 加藤（かとう） 行正（ゆきまさ）

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより当社の運営に対して格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、6月より『たいよう新聞』をリニューアルする運びとなりました。太洋基礎工業株式会社について、より深く知っていただける内容にしてまいりたいと思いますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

リニューアルの経緯

これまで『たいよう新聞』を通して、当社の専門性の高さや技術力について発信し、会社の強みをお伝えすることに注力してまいりましたが、株主様から「専門用語が多い」「具体的な業務内容をイメージしにくい」というお言葉をいただくことも少なからずありました。

そこで今回、太洋基礎工業の社風や強みをよりわかりやすくお届けできるよう、大幅なリニューアルをする運びとなりました。より一層多くの方に当社の活動を知っていただき、既株主様には長期に株式を持っていただくことと、新たに株主様が増えるきっかけになることを願っております。

58期の展望

昨年度57期では予期せぬトラブルへの対応で人手が割かれてしまったために、受注調整をせざるを得ない状況となり、決算期直前に売り上げ予想を当初よりも少し下げることとなりました。しかし、このままで良いとは思っておりません。ピンチをチャンスに変えるべく、57期での課題や苦い経験を糧に、一つひとつの現場を丁寧に手がけ、いち早く立て直しを進めていく所存です。

２０２４年2月より、58期がスタートしました。現時点では公共や民間の設備投資は前年比と同水準で推移しております。売り上げ予想は145億円に設定しておりますが、そこを上限とするのではなく、この数字を超えるつもりで挑戦を続けていきたいと思います。

1月に発生した能登半島地震の復興活動も、今後本格化してくるでしょう。まだ辛い思いをされている方も多くいらっしゃるかと思います。太洋基礎工業はインフラストラクチャー整備を通して、被災された方々のお役に少しでも立てるよう、尽力してまいります。

当社の生存戦略

SDGsをはじめ、地球環境への配慮は企業として取り組んでいかなければならない使命です。現在は、土壌浄化や再生エネルギー事業を主に手がけておりますが、この枠にとらわれず、環境問題への貢献方法を模索し続けてまいります。

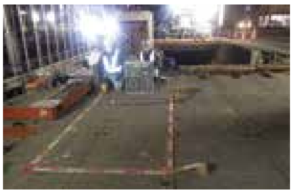
少子高齢化による人口減の影響は、業界としても避けられません。当社は、人工知能（ＡＩ）や情報通信技術（ＩＣＴ）などのテクノロジーを駆使して、マンパワーに頼らなくて良い部分を効率化することで、人手不足への対応を試みていくつもりです。研究開発に注力し、既存工法に付加価値をつけるのはもちろん、新技術の開発も視野に入れてまいります。

以後も『たいよう新聞』を通して、会社の活動や強みを皆様にしっかりとお届けしてまいりたいと思います。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

最前線レポート

令和5年度河債第1号刑務所南川改修工事

今回紹介するのは、とある河川工事。しかし、河川といってもメインの現場は地上。一体どういうことなのでしょうか?最前線で活動している方ならではのハプニングエピソードもお届けします!



静岡支店 環境開発部

S さん

現場概要

工　期	令和6年3月18日～4月3日
場　所	静岡県静岡市葵区東千代田
発注者	静岡市建設局土木部河川課
元請会社	伸栄建設株式会社
一次下請会社	太洋基礎工業
現場の人数	太洋基礎工業1名 協力会社4名

施工目的

県道74号線の下に流れている川の水路を撤去し、スラリー撹拌と呼ばれる重機施工にて、新しく川幅を広げる工事を実施。水害が頻発している地域のため、川幅を広げて水害の抑制を図ることが目的となった。

現場の特徴

今回の施工エリアは、県道74号線の道路の上。非常に交通量の多い交差点だったことで、必然的に夜間工事となりました。着工前に現場調査を行ったところ、現場の真上6mほどの高さに、電線が何本も走っていることが判明。使用する予定の撹拌機械は、高さ11mのシロモノです。つまり、電線と機械が干渉してしまうことがわかりました。対策を検討した結果、高さ6mの同型機を調達し、干渉を回避することに成功。特殊な短尺機と当社標準機の2台併用にて、機能面を補えると判断するに至りました。

工事材料の漏洩をシャットアウト!

6m短尺機を採用したことにより、工事に使うセメントミルクを内包している「ロッド」というアタッチメントを着脱する必要性が発生しました。その際の懸念点は、ロッドを外すときのミルクの飛散です。飛散する原因はミルクの内部圧送であるため、急遽圧力開放バルブを設置。応急的な対策により、何とか飛び散りを防ぐことができました。

また、「プラント」と呼ばれるセメントと水を混ぜる設備も持参していたのですが、現場の真横には自動車ディーラーショップが……。プラントから飛散する粉が、自動車に付着しないようにブルーシートで間仕切り。周囲に影響を与えないよう工夫を凝らした現場でした。

現場での苦労

状況に合わせた柔軟な対応で、安全作業を確保

撹拌作業中、土の中に「コンクリートパイル」と呼ばれる破片が混入していたことが判明しました。機械がパイルに当たると破損する恐れがあるため、回避は必須。しかし、無線で機械のオペレーターとやり取りを行うと、作業にタイムラグが発生するので危険です。そこで、重機についているバックモニターを移動させ、オペレーター自身がリアルタイムで施工箇所を視認できるように変更。危険を回避できる上に、施工効率も上がるアイディアでした。

工事完了に向けての意気込み

現在は1期工事が終わった段階で、まだ交差点の半分の工事が残っています。今後も予期せぬトラブルが発生する可能性もありますが、これまでの対応経験をもとに、できる限りスムーズに工事を進めてまいります。

現場での珍!?エピソード

KEEP OUT

施工箇所はアスファルトの下。つまり地盤がぬかるんでいる状態です。重量級の作業員が歩いたとき、足が地面にどんどん沈んでいき……。

「お前、えらい埋もれとるやないか!」と思わず笑いが起きました(笑)

CRAFTSMANSHIP

我が社の匠の技

人々が安心して暮らすためのベースを固める

「顧客信頼度・満足度が高い」という評価を得ているHさん。匠の技とは、手先のテクニックだけにあらず！多くの人が動く現場をどのように動かしていくのか、という「コントロール術」に秘密が隠れていました。

東京支店 環境開発部

H さん

CRAFTSMANSHIP

私の仕事について

私どもの仕事を一言で表すと、建設地の地盤改良工事です。対象となる建築物は、民間向けがメイン。例えば、ハウスメーカーによる一般住宅・マンション建設にあたり、より強固な土台を築くべく、地盤の強化を行っています。その中で、現場監督として施工管理に努めるのが私の役目です。

仕事をする上で心がけていること

スムーズな連携を実現するための潤滑剤

工事現場における当社の立場は、1次下請け会社です。現場には元請け会社様と数多くの職人さんが入っており、皆さんとの協力・連携は不可欠。したがって、現場にいるすべての方々とのコミュニケーションを重視しています。

どの現場においても重要なのは、無理・むだのない安全な工程管理を実現すること。全体的な進行については元請け会社様と調整し、その方針を実際に作業している職人さんへ共有。逆に、職人さんの作業進捗も元請け会社様へ速やかにフィードバック。施工体制の上下がうまく機能するように、しっかりとコミュニケーションをとりながら仲介役を務めています。

想定外のハプニングにも即時対処できる仕組みづくり

現場では、予期せぬ事態に陥ることも珍しくありません。特に様々な工種が並行する複雑な工事であればなおさらです。そのため、私どもは1日のスケジュールを3分割して管理しています。3つの区分に分けるメリットは柔軟性。突発的な作業変更を余儀なくされた場合でも、現場状況に応じて組み替えることができます。その際にも重要になるのが、コミュニケーションです。元請け会社様とスピーディーに協議し、現場の統制を図っています。

お客様からいただく高難度な要望への向き合い方

課題解決を諦めずに挑み続ける

私が常日頃から意識しているのは、「そのときのベストを尽くす」ことです。自分自身の力量を把握しているため、ときにはリアルタイムで解決できないことも。しかし、施工が終わったから仕事も終わり、ではありません。クリアできなかった課題を解決すべく、自社の敷地内でイメージトレーニングや実践作業に取り組んでいます。

仕事のやりがい

インフラの一面を支えているという自負

図面に描かれているものは、数多くの仲間と様々なプロセスを経てできあがっていきます。完成した瞬間の達成感は、一言では言い表せません。地震が多発し、強固な地盤づくりへの重要性が増す昨今の日本。「社会に貢献できている」というやりがいを感じています。

声援

九州支店
S さん

時代に即した働き方を模索

2024年４月から、建設業の36協定に新たな制限が追加されました。そのため、九州支店でも残業を最小限に抑える業務改善に着手。具体的なアクションとしては、主に書類の取り扱い方に手を加えています。これまで各自バラバラで作成していた書類の統一化および共有を実施。そして現場計画の変更が発生した際は、一度私を介して改めて作成指示を出すことにしました。これにより、思考する時間や無駄な作業を減らすことができます。現在の目標は、残業を月間20〜30時間に抑えること。一筋縄ではいきませんが、達成に向けて注力してまいります。

自己啓発が会社への貢献に結びつくと信じて

先日、組織への向き合い方に関する本を読みました。本のテーマは、プレイヤーからマネージャーへの切り替わり。まさに今の私自身に当てはまる書籍でした。読んでみて思ったのは、上司の動きが早ければ早いほど、部下もスピーディーに動けるようになるということです。個々のスピードアップは組織へと反映され、最終的にはお客様へとつながっていきます。改めて自身の立場を意識し、運営に励んでいこうと感じた次第です。

責任感と向上心を胸に

九州支店は20〜30代の若手が多く、とてもエネルギッシュな支店です。一昔前に私が現場で苦労していたように、きっと皆さんも多くの悩みを抱えているはず。しかし安易に答えを示さず、成長をしっかりと見守っていく所存です。引き続きマネジメントに尽力し、九州から全国へ良い風を吹かせたいと思います。

Taiyo Report

たいようレポート 〜花見大会を実施しました！〜

日 時 2024年3月31日(日) 10時30分〜12時30分　**場 所** 神守研究開発センター敷地内

総務部
M さん

当日の様子

NPO法人沙漠緑化ナゴヤと当社の共催でチャリティー花見大会を開催。当社、協力会社合わせて約 100 名が参加しました。代表取締役社長、加藤行正の乾杯から始まり、ビール、ジュース、オードブル、おにぎりが振る舞われたほか、ビンゴ大会も開催。汗ばむくらいの陽気の中、協力会社の方々との交流をはかり、社員同士の絆もより深めることができました。参加者からは「上司、部下の意外な一面を見ることができた」という声も届いています。

ご家族も参加されました！

健康経営優良法人の活動の一環で「ベジチェック」を実施！

ビンゴ大会が大盛り上がりでした！

※ベジチェックとは、ＬＥＤを搭載したセンサーに手のひらを当てるだけで、野菜摂取レベルを推定することができる機器です。皮膚のカロテノイド量を測定し、野菜摂取レベルと野菜摂取量の推定値を表示します。

月間 MVP賞

※月間ＭＶＰ賞は当社社員だけではなく、協力会社の皆さまも表彰の対象となっています。自薦、他薦は問いません。多くの受賞者が出ることを期待しています。

受賞者

㈱千原土木
T さん

推薦理由

常盤橋プロジェクトＴＲＤ工事において、清水建設㈱より安全表彰を受けました。日頃より、現場安全作業に積極的に協力していただき、声を掛け合い安全に努めていただいたからこそ、今回の安全表彰につながったと考えます。ここに、月間ＭＶＰ賞を推薦いたします。

（推薦者　東京支店 工事部　Ｍさん）